

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名	和	E	主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-03 安全で安心 できる社会	20130587026901	●安全で安心 できる社会 II (医療現場の 安全と安心)	和	E	橋爪 真 弘	1年,2年,3年,4年	後期	木 3	~
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-03 安全で安心 できる社会	20130587028501	●安全で安心 できる社会 II (自然災害と インフラ長寿 命化)	和	E	松田 浩	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	~
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-03 安全で安心 できる社会	20130587028901	●安全で安心 できる社会 II (破壊事故と ヒューマン ファクタ)	和	E	勝田 順 一	1年,2年,3年,4年	後期	金 3	~
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-03 安全で安心 できる社会	20130587029301	●安全で安心 できる社会 II (水環境の安 全と安心)	和	E	田邊 秀 二	1年,2年,3年,4年	前期	木 3	~
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-03 安全で安心 できる社会	20130587029701	●安全で安心 できる社会 II (環境リスク と社会)	和	E	早瀬 隆 司	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	~

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-03 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587026901	科目番号	05870269
授業科目名	●安全で安心できる社会II(医療現場の安全と安心)		
編集担当教員	橋爪 真弘		
授業担当教員名(科目責任者)	橋爪 真弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋爪 真弘,新川 哲子,田崎 修,田中 隆		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-44		
対象学生(クラス等)	2年次生		
担当教員Eメールアドレス	hashizum@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	熱帯医学研究所 小児感染症学分野		
担当教員TEL	095-819-7764		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	急速なグローバル化や災害への対策が急務とされる今日の状況において、医療現場で人々の健康に関する安全と安心を維持するためにどのような対応が求められるか、総合的に理解する。		
授業方法(学習指導法)	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。		
授業到達目標	医療現場で人々の健康に関する安全と安心を維持するためにどのような対応が求められるか、自ら努力をして維持することが重要であることを認識できるようになる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：人々の健康に関する安全と安心 2. デング熱ってなに？ 3. 気候変動と感染症 4. エイズは蚊でうつるか？：蚊と感染症 5. アフリカの暮らしと蚊 6. 緊急被ばく時における放射線リスクと危機管理 7. 放射線障害を受けた住民に対する支援活動の実際 8. くすりは毒から作られた(くすりはリスク。医薬品が開発された歴史と、作用と副作用について) 9. 自然界の毒(身近にある毒草や害虫と呼ばれる生物の毒と、毒を克服した生物たちについて) 10. くすりと食べ物の違いについて(予防医学, 漢方薬, サプリメント, 健康食品, 特定保健用食品) 11. 毒, 麻薬, 覚醒剤, 幻覚剤の歴史と化学(そんなはずではなかった物質たち) 12. 救急医療の現状と課題 13. 災害医療の現状と課題 14. 救急医療における臓器提供と終期医療の現状と課題 15. 安心な災害医療・救急医療に向けて我々が取り組むべきこと 		
キーワード	放射線リスク、災害医療、天然毒、熱帯感染症、気候変動		
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。必要に応じて参考書を紹介する。		

成績評価の方法・基準等	受講態度、レポート、プレゼンテーション、試験（担当者と異なる。授業の初めに連絡予定）で評価する。
受講要件（履修条件）	特になし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-03 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587028501	科目番号	05870285
授業科目名	●安全で安心できる社会II(自然災害とインフラ長寿命化)		
編集担当教員	松田 浩		
授業担当教員名(科目責任者)	松田 浩		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松田 浩, 森田 千尋, 蔣 宇静, 高橋 和雄		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)	2年次生		
担当教員Eメールアドレス	matsuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部1号館6階		
担当教員TEL	095-819-2590		
担当教員オフィスアワー	金曜日6時間目		
授業のねらい	本授業は、台風、水害などの自然災害におけるリスク管理と防災計画を理解するとともに、膨大な数のインフラ構造物の劣化・老朽化状況を把握しインフラ長寿命化の意義を理解する。この授業を通して、自然災害に遭遇した際、インフラ構造物の劣化・損傷を発見した際に、将来実社会で遭遇しうる際に役立つ知識を修得することがてることが本授業のねらいである。		
授業方法(学習指導法)	本授業では、PowerPointを用いたプレゼンテーション形式で授業を進めるとともに、ビデオ等も用いて理解を深める。 本授業では、講義、グループ活動、発表を通して「自然災害と防災」および「社会インフラ構造物の長寿命化」についての知識を深めていく。初めの数回は、講義形式の授業を数回取り入れ、この授業における前提の知識を得る。その後は、1グループ5名ほどのチームに分かれ発表に向けた調査を行う。調査では、図書館やインターネットで情報収集をし、チーム内で議論をしながら発表準備を行う。発表では、調査結果を報告するだけでなく、他のグループを評価しながら、新たな知識を身につけていく。		
授業到達目標	自然災害におけるリスク管理と防災計画を理解するとともに、膨大な数のインフラ構造物の劣化・老朽化状況を把握しインフラ長寿命化の意義を理解する。そしてこのような事象に遭遇した際の対処方法を習得することを到達目標とする。		
	<p>[]内の数字は第何回目の講義であるかの目安。()は到達目標。</p> <p>① ガイダンス ----- [自然災害と防災] -----</p> <p>② 自然災害概論と防災の考え方(日本の自然災害の特徴と防災・減災の考え方) ③ 防災・減災のための社会システム(災害対策基本法、防災情報システム、気象警報等) ④ 地域防災計画(避難計画、ハザードマップ、自助・公助、高齢者等の避難) ⑤ 地震・津波・火山災害と防災対策(災害による現象・被害と防災対策) ⑥ 豪雨・台風・高潮災害と防災対策(災害による現象・被害と防災対策) ⑦ 土砂災害と防災対策(斜面崩壊、地すべり、土石流、液状化)</p>		

授業内容	<p>⑧ インフラと防災対策 (モニタリング、リアルタイム防災、道路災害等)</p> <p>-----</p> <p>[インフラ長寿命化]</p> <p>-----</p> <p>⑨ 長崎県内の橋</p> <p>⑩ 橋を強くさせるためには</p> <p>⑪ ペーパーブリッジコンテスト (強い橋を考える)</p> <p>⑫ ペーパーブリッジコンテスト (強い橋を作る)</p> <p>⑬ ペーパーブリッジコンテスト (コンテスト)</p> <p>⑭ 「橋は大丈夫か」「巨大都市再生への道」</p> <p>⑮ 「観光ナガサキを支える“道守”養成ユニット」</p> <p>-----</p> <p>⑯ 試験</p>
キーワード	自然災害、リスク管理、防災計画、社会インフラ構造物、劣化・老朽化、インフラ長寿命化
教科書・教材・参考書	<p>[自然災害と防災] 高橋裕:川と国土の危機、岩波書店、こちらの講義についてはプリント配布(高橋)</p> <p>[インフラ長寿命化] なし、必要に応じてプリント配布。</p>
成績評価の方法・基準等	レポート、グループプレゼンテーションの発表内容、最終試験(担当者で異なる。授業のはじめに連絡予定)で評価する。
受講要件 (履修条件)	モジュールⅠを受講していること。
本科目の位置づけ	「自然災害と防災」および「インフラ長寿命化」の授業を通して「安全で安心できる社会」の意義と重要性を理解することができる。
学習・教育目標	本授業により、自主的探求力、批判的思考力、基礎的知識、多様性の意義、社会貢献意欲を修得することができる。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-03 安全で安心できる社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587028901	科目番号	05870289
授業科目名	●安全で安心できる社会II(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	No.3 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー	基本的には講義終了後講義室, またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業のねらい	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要があり、ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっていると多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学習としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。</p> <p>講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。</p>		
授業到達目標	<p>この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。</p>		
	<p>“ものづくり”の手順、“もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミスについて、実態と対策を考える。</p>		

授業内容	<p>第 1 回 講義の概論, 講義の目的, "ものづくり"の成果 第 2 回 "ものづくり"の成果と破壊事故分析 第 3 回 力に対する材料の限界, 破壊とは 第 4 回 最近の事故例における発生の背景 第 5 回 事故例と事故分析 第 6 回 工学的安全システムの有効・無効 第 7 回 "ものづくり"における『安全』とは 第 8 回 "ものづくり"における安心と市民の『安心』とは 第 9 回 技術者の責任と市民の責任 第 10 回 人が犯すミスとその背景, および体験 第 11 回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験 第 12 回 思い込みと錯覚による安全喪失 第 13 回 外部情報と脳の受容情報 第 14 回 人の理解と脳の理解, その行動 第 15 回 安心文化の醸成のためには</p>
キーワード	破壊事故, 医療事故, 組織事故, 安心・安全, ヒューマン・ファクタ, 脳科学, 認知科学
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 教員作成の講義資料 (プロジェクト), ビデオ, 配布資料, 実験資料によって行う。 必要に応じて, 参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は, 不合格とする。課題レポートでは, 自分自身の多面的な考察, 意見, 感想のみを評価し, 講義内容を記した部分は評価対象外とする。レポートでの得点で合格に達した者については, 受講態度や自主学習を考慮して, 成績を報告する。
受講要件 (履修条件)	欠席は認めず, 全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ, 個別指導を行う。なお, 高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。受講学生数は, 最大50名とする。
本科目の位置づけ	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成するための科目である。
学習・教育目標	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成する。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	準備は必要ないが, 講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-03 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3																								
開講期間																											
必修選択	選択	単位数	2.0																								
時間割コード	20130587029301	科目番号	05870293																								
授業科目名	●安全で安心できる社会II(水環境の安全と安心)																										
編集担当教員	田邊 秀二																										
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二																										
科目分類	全学モジュールII科目																										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																								
教室	[教養A棟]A-33																										
対象学生(クラス等)	教・経・薬・水																										
担当教員Eメールアドレス	s-tanabe@nagasaki-u.ac.jp																										
担当教員研究室	工学研究科(総合教育研究棟7F709)																										
担当教員TEL	095-819-2659																										
担当教員オフィスアワー	12:00~12:50(事前にメールで連絡すること)																										
授業のねらい	日本は地球の温帯地域にあり、四季を通じて降雨があるため水には恵まれてきた。しかし、途上国においては、安全な飲料水の確保は喫緊の問題であり、日本に限らず、先進国の水処理技術の導入が急がれている。この講義では、工学研究科の水環境技術者育成に関わる教員により、水環境に関する技術の現状、問題点を整理し、日本の持つ先進的なモニタリング技術、アセスメント、膜や生物処理を使った最先端水処理技術などを理解することで、普段気づかない水環境の安全・安心について考える。																										
授業方法(学習指導法)	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。																										
授業到達目標	水環境に関する問題について解説できる。水環境のモニタリング技術、廃棄物問題、水処理技術について説明できる。																										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水環境モニタリング技術について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>水道と水源池</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>水源を守る</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td><水を造る>膜分離技術概論－現状と展望－</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td><水を再生する>膜分離技術概論－現状と展望－</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>水環境生態系の保全と修復</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状	2	水環境モニタリング技術について	3	水道と水源池	4	水源を守る	5	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)	6	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)	7	化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について	8	世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について	9	<水を造る>膜分離技術概論－現状と展望－	10	<水を再生する>膜分離技術概論－現状と展望－	11	水環境生態系の保全と修復
回	内容																										
1	オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状																										
2	水環境モニタリング技術について																										
3	水道と水源池																										
4	水源を守る																										
5	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)																										
6	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)																										
7	化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について																										
8	世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について																										
9	<水を造る>膜分離技術概論－現状と展望－																										
10	<水を再生する>膜分離技術概論－現状と展望－																										
11	水環境生態系の保全と修復																										

	12	環境シミュレーションの方法と数値計算の原理
	13	コンピュータによる数値計算の手続き
	14	環境問題へのシミュレーションの応用例
	15	水環境の安全・安心に関する総括と評価試験
	16	評価結果に対する指導
キーワード	水、膜、廃棄物、水環境、分離、生物処理、シミュレーション	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要があればプリントを配付し、参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	講義への積極的参加(40%)、レポート課題の評価 (60%) の総合点で評価する。	
受講要件 (履修条件)	特になし	
本科目の位置づけ	JABEE基準の(a)および(b)に相当する	
学習・教育目標	自主的探求能力の養成、多様性の理解、社会貢献への意欲の啓発	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-03 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587029701	科目番号	05870297
授業科目名	●安全で安心できる社会II(環境リスクと社会)		
編集担当教員	早瀬 隆司		
授業担当教員名(科目責任者)	早瀬 隆司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	早瀬 隆司		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	t-hayase@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部432		
担当教員TEL	095-819-2721		
担当教員オフィスアワー	水 11:00-12:00		
授業のねらい	環境問題と環境リスクについての包括的な知識を修得し、それに基づいて環境リスクへの対応のあり方について考察を深める。		
授業方法(学習指導法)	講義と文献購読を中心とする。		
授業到達目標	我々の認識する環境リスクと科学的といわれる方法で表現される環境リスクとの違いを理解すること。そのうえで、環境リスクへの対応に際しての自分たちの役割を理解すること。		
授業内容	回	内容	
	1	第1回 オリエンテーション 個人的リスクと社会的リスク	
	2	第2回 環境問題と環境リスク	
	3	第3回 「環境リスク」登場の背景① 環境問題の変化	
	4	第4回 「環境リスク」登場の背景② 環境問題の議論のパラダイムの変化	
	5	第5回 環境の保全と環境保全上の支障の防止	
	6	第6回 環境リスクの見積もり 演習①	
	7	第7回 環境リスクの見積もり 演習②	
	8	第8回 環境リスクの見積もり 演習③	
	9	第9回 環境リスクと科学的不確実性	
	10	第10回 事実判断と価値的判断	
	11	第11回 環境リスクと倫理的領域	
	12	第12回 認知リスクと科学的リスク①	

	13	第13回 認知リスクと科学的リスク②
	14	第14回 正しいリスクとは何か？
	15	第15回 環境リスクへの対応は？ 私たちの役割
	16	第16回 試験
キーワード	環境リスク 科学 価値	
教科書・教材・参考書	特になし 板書と資料の配布	
成績評価の方法・基準等	受講態度及び試験	
受講要件（履修条件）	特になし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

